

社会への復帰を就労移行支援での立場から考える ～交通事故から復職を諦め、新規就労までの道のり～

○古瀬 大久真(特定非営利活動法人クロスジョブ クロスジョブ福岡)

共同研究者

濱田 和秀(特定非営利活動法人クロスジョブ 代表理事)

砂川 双葉(特定非営利活動法人クロスジョブ クロスジョブ鳳 副所長)

1.はじめに

2023年3月にクロスジョブ8か所目として福岡市中央区にクロスジョブ福岡が開設。

自費リハビリ等含む医療機関とのつながりから福祉の連携、社会復帰へつながった事例。

脊髄損傷により四肢麻痺を呈したものの、社会復帰を模索されていた方だった。地域へのつながりの中で社会復帰のお手伝いをする機会があったので、就職までの経過を元に考察を述べる。

事例紹介

大地さん(仮名)50代 男性

診断名: 脊髄損傷

手帳: 身体障害者手帳 4級

職業: コンビニ経営(自身も業務に携わる)

現病歴

X年。仕事終わりに職場から自宅へ帰る途中。バイクvs自転車で交通事故。大地さんはバイクを運転していた。受傷直後から首から下の運動ができないことが分かり、到着した救急隊により急性期病院へ搬入。検査の結果、第一胸椎損傷の診断となった。

リハビリと職場復帰の模索

寝たきり状態であり、動けるようになるかは50%の状態です手術実施。

→無事手術は成功。リハビリにより徐々に歩行も可能となり、回復期病院を経て自宅退院。

退院当初：復帰したい。

しかし、、、麻痺の残存があり断念。仕事は諦めていた。

退院後：自費のリハビリ開始。

歩行や左手指の麻痺のリハビリを集中的に行っていた。

クロスジョブ福岡の紹介

自費リハビリのスタッフからクロスジョブ福岡を紹介。

見学、体験利用を経て、新規就労を目的に利用開始。

事業所内訓練

幕張版ワークサンプルを用いた訓練を実施。

事業所外訓練

スポーツジムの清掃

報連相の必要性や将来の仕事を見据えた、可能な業務内容の確認を行った。



訓練と報連相の重要性

業務を意識した訓練を実施。

例) 事務補助業務: 壁掛けフックの接着の依頼

情報を取りこぼし、自己判断で接着。後からスタッフが確認するとズレが生じていた



- ・業務の依頼を受けたときにスタッフと双方で同じイメージを持つことができていたか
 - ・接着前に事前にスタッフに確認する必要はなかったか
 - ・どのタイミングで相談することが適切なのか
- などをフィードバックしながら情報の取りこぼしの改善を図った。

早期就職活動と1社目の面接

本人のneeds: 金銭面の問題から早く就職したい。

→職場実習は行わずに就職活動へと進んでいった。

面接職種

場所: 調剤薬局

職務内容

- ・一包化された薬の高齢者施設向け加工作業、セット作業
- ・高齢者施設における薬の配送業務
- ・薬局内でのその他庶務業務



早期就職活動と1社目の面接

書類審査、筆記試験(一般常識)クリア

面接:大きなミスもなく終了

面接後の見学時、

面接官より「このコンテナ持ってみてください」と。

→うまく持てなかった(麻痺の強い左手指をくぼみにつまみかけられず)

結果、、、不採用

理由

「コンテナの積み降ろしは頻繁に行う必要があった。計4名の面接を行った上で他の方が秀でていたためそちらへお願いすることとなった。」

早期就職活動と1社目の面接（振り返り）

不採用について

本人

「折りコンがなかなかスムーズに持ち上げることができなかった。身体面を改めて自費リハへ報告しアプローチを行っている。やっぱり仕事としてやろうと思うと重たいものを運搬するのは難しい。それが分かっただけでもいい。」

スタッフ

「障害を負って出来ることと出来ないこと、やりたいこととそうではないことが分かりました。今後は大地さんが活躍できる仕事を一緒に探していきましょう」

2社目の応募と成功

応募に至った理由

職歴に営業職があること、お客様と接客することへの抵抗感も少なく、自宅からの通勤もしやすいという理由から選定。

職種：ケータイショップ販売補助

職務内容

- ・販売・販売補助
- ・郵便物の発送、受け取り
- ・電話対応
- ・清掃、商品補充



2社目の応募と成功

ハローワークでの求人検索後

- ・事前に支援者から企業へ連絡。
- ・一緒に企業見学へ。

見学時、自分から重量物が持てない旨を先方に伝え、店舗で扱う範囲の重量物を実際に持ち上げて持てるかの確認を行った。

→実際に持ち上げることができた。

実際に確認することができイメージをつけることができた。

その後の面談で応募の希望あり。

二社目の応募と成功（結果）

面接当日

スタッフも面接に同行。

面接官2名。内1名は企業見学の際に対応いただいた方。

面接では前職などの経歴を踏まえ評価を頂く。

ざくばらんな会話から大地さんも比較的リラックスして答弁できた。

面接直後、本人から「手ごたえはある方です」と。

面接翌日、「採用したい」との連絡あり。

トライアル雇用

Y月＋6ヵ月で採用。翌月よりトライアル雇用開始。

項目	内容
勤務日数	週5日
勤務時間	1日4時間30分(内30分休憩) 開始2ヵ月から1日5時間30分(内30分休憩)へ変更
振り返り	毎日終業後
訪問頻度	開始2ヵ月は週2回、その後は週1回 必ず職場上司と大地さん双方から聴取を実施
個別支援計画 作成頻度	1週間毎

トライアル雇用②

トライアル雇用開始に伴う初回の個別支援計画

懸念点：身体面の疲労感

対応：日々の振り返りの中で疲労感を数値化

業務時間の延長、業務内容の広がりで変化があるかを確認

結果：疲労感は概ね3~5/10で推移。

著明な疲労感も無く、一度も休むことなく通勤できた。

トライアル雇用で見えた問題と成功要因

日々の訪問で見えたこと

自己判断で動いてしまうことがあった

→「段ボールを捨ててに行く際、隣接する店舗のカートに段ボールを積み破棄に行った。」

高頻度の訪問によりすぐに情報の共有を頂いた。

なぜ、そのような判断に至ったのか、どうしたらいいのかを大地さん、職場上司と共に議論。解決策を早い段階で見つけることができた。

※定期的な訪問から、職場上司から相談を受けることができる関係ができており、リアルタイムでフィードバックができた。

トライアル雇用から正規雇用へ

トライアル雇用が終了しY月+10ヵ月で正式採用に至った。

職場上司、本部人事より

「特にこれで(トライアル雇用)終了とは考えていません。このまま正式に雇用させていただきたいです。」

現在は、フォローアップとして月に1~2回の訪問を実施中。

今後は定着支援事業を利用するかを踏まえて支援を継続している。

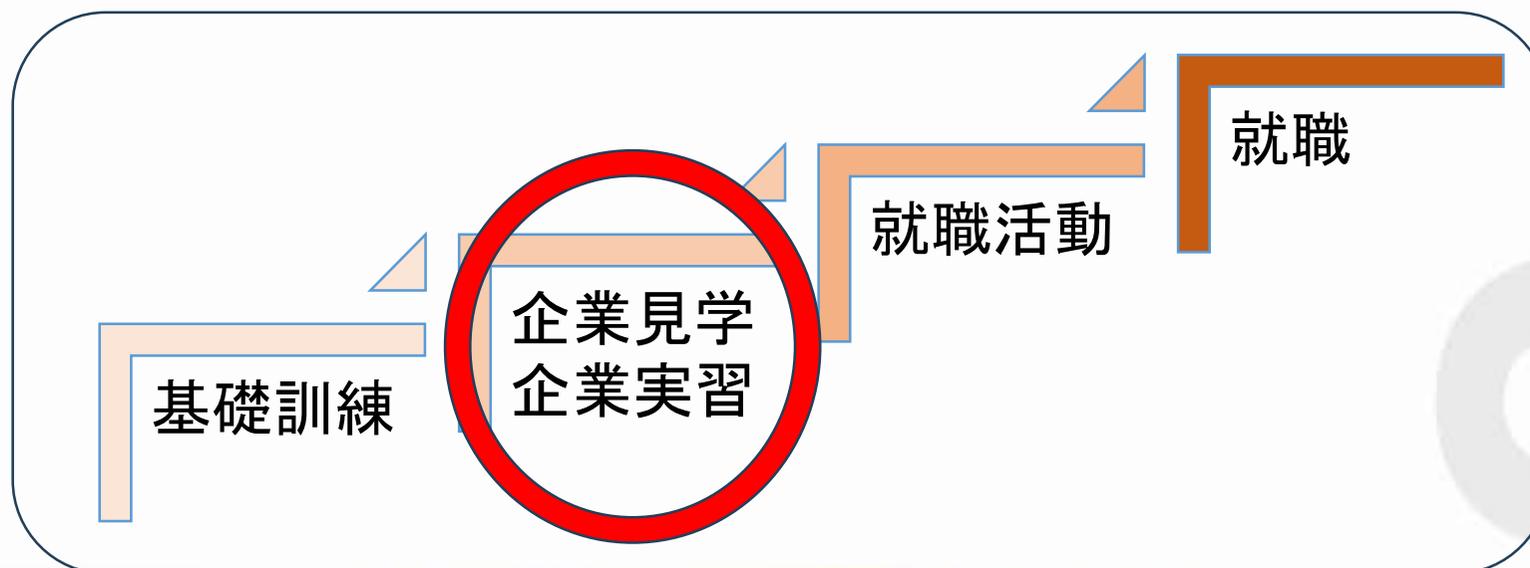
考察(実習の重要性)

今回、「施設外就労」は行ったものの、「企業実習」は行わなかった。

クロスジョブの支援として「企業実習」は非常に重要な位置づけ。

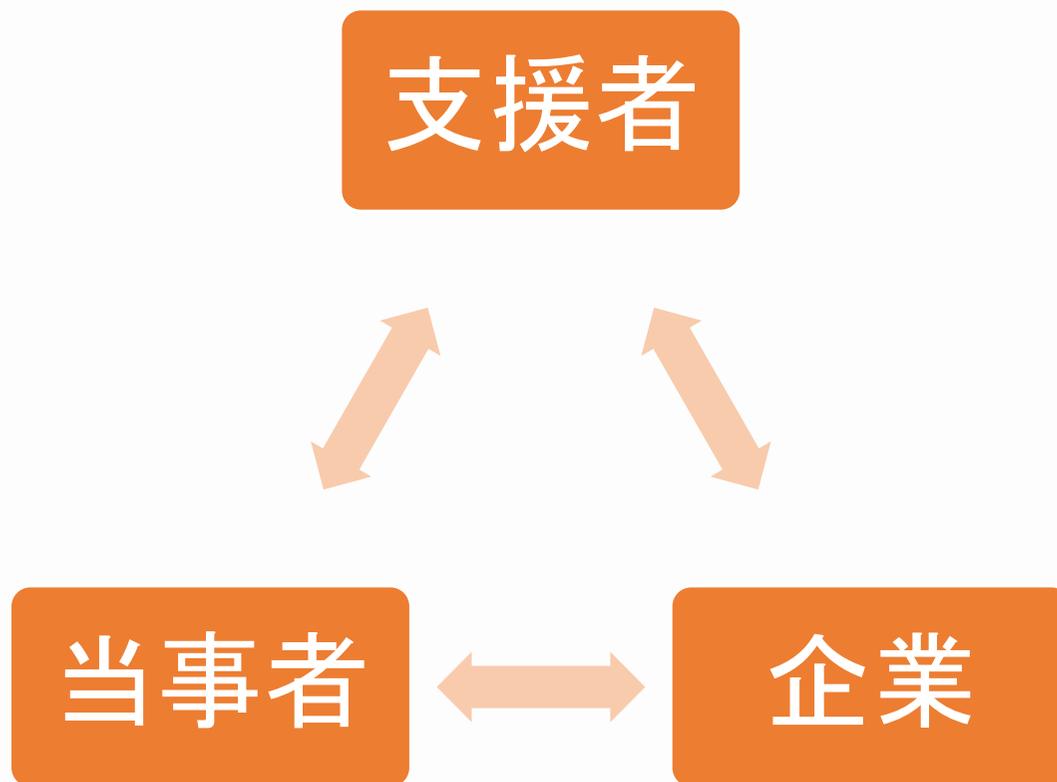
→企業の目線で見えていただき、最終日に評価表をつけていただく。

就活に進むことが問題ないかの判断を面談で行っていくため。



考察（就職後のフィードバックの重要性）

就職後（トライアル雇用含む）もフォローアップや定着支援による支援は重要になりうる。



今後の支援方針

出来る事とやりたいことは違う

受容

- CJでの気づき
- 実習での気づき

自分の理解

- 麻痺
- 高次脳

最善の選択をしてもらうための研鑽

包括的な支援の提供